



アニュアルレポート2011 (会社案内)

クルマのことなら  オートバックス

 **AUTOBACS SEVEN**

# クルマのことならオートボックス

オートボックスセブンは1974年にカー用品のワンストップショッピング業態を日本で初めて開発しました。現在は、国内最大規模の500店舗以上のネットワークを有し、カー用品のみならず整備や自動車販売なども手掛け、全てのドライバーから「クルマのことならオートボックス」と支持・信頼していただけるような店舗網を目指しています。



## 目次

02	.....	イントロダクション
06	.....	社長メッセージ
08	.....	事業ハイライト
10	.....	持続的な成長のために
14	.....	コーポレート・ガバナンス
16	.....	オートボックスチェーンの業態及び店舗ネットワーク
18	.....	商品／サービス情報
19	.....	基本データ
20	.....	会社概要／組織図
21	.....	ウェブサイトのご案内



### オートバックスチェーン経営理念

オートバックスは、常に、お客様に最適なカーライフを提案し、豊かで健全な車社会を創造することを、使命とします。

### オートバックスチェーン経営ビジョン

オートバックスは、車に関する楽しみと問題解決を、ともに提供する存在として、「クルマのことならオートバックス」と、真に信頼される、総合専門チェーンになります。





## クルマのことなら何でも

オートバックスの店舗網で実施している車検の台数は年間約50万台、販売している自動車の台数は約1万6千台※であり、カー用品の専門店からお客様のクルマに関する様々なサポートを提供する店舗に変わりつつあります。現在、整備、板金、保険などのサービスも増加させつつあり、全国約170店にて自動車の買取・販売も行っており、「カー用品ならオートバックス」から「クルマのことならオートバックス」とお客様から言っていただけのような店舗作りに努めています。

※2011年3月期



豊富な品ぞろえの店内



総合メンテナンスコーナー



中古車の展示

オートバックスの店舗では、他店を圧倒するカー用品の品ぞろえ、車検や整備についてもご相談いただける総合メンテナンスカウンター、そして店頭における中古車の展示など、クルマに関するあらゆる商品・サービスを提供しています。





親しみやすいお店に

オートバックスの強みは、お客様がお望みのカー用品が必ず見つかる豊富な品ぞろえ。この強みを生かしたまま、あらゆるお客様が快適にお買い物をしていただくために、分かりやすく、選びやすい売場への改装を進めています。また、明るく元気な挨拶と心のこもった接遇を身に付けた従業員がお客様をお迎えます。



明るい店内、広い主通路



探しやすさを追求した売場



総合メンテナンスカウンター

2012年3月末までを目標にオートバックス業態において売場改装を実施中です。明るい店内、広い主通路、価格帯別や機能別に分かりやすく並べられた商品や店内の案内表示など、お客様のお買いものの快適性を追求しています。





現在、自動車産業においても環境に対する対応が求められています。オートバックスグループでは、今後増加が見込まれるハイブリッド車、電気自動車に対応するために、電気自動車用充電器を設けたり、メンテナンスサービスを提供できるようにピット作業員の研修を進めています。また、太陽光発電パネルやLED電灯を利用した環境配慮型店舗の実験も行っています。



LED電灯



電気自動車用充電スタンド



電力使用状況表示モニター

環境配慮型の実験店舗においては、LED電灯、電気自動車用の充電スタンド、太陽光発電パネル、店内の使用電力の状況に対する表示モニターなどを設置し、店舗の環境に対する負荷と設置コスト・運営コストを比較検証しています。





タイ AUTOBACS Chaeng Wattana Store

海外におけるオートバックスの店舗は、フランス、中国、台湾、タイ、シンガポールに25店<sup>※</sup>。日本で培ったカー用品の品ぞろえとサービスは世界中のドライバーに受け入れられています。今後は、自動車産業の成長著しいアジアを中心に店舗網を拡大し、海外でも「クルマのことならオートバックス」を目指してまいります。

※2011年3月31日現在



中国  
澳德巴克斯 上海曹安公路店



シンガポール  
AUTOBACS UBI Store



フランス  
AUTOBACS Claye-Souilly Store

フランス、タイ、シンガポールなどでは日本と同様にカー用品とサービスの両方を提供する店舗が受け入れられています。中国では現在、日本と同様の店舗に加え洗車サービスなどを重視した店舗の実験を行っています。



# 「クルマのことならオートバックス」の実現を目指し、 中期経営計画の推進に注力します。

### 中期経営計画の基本方針

#### 経営目標 (2014年3月期)

連結営業利益 .....	<b>160億円</b>
連結株主資本当期純利益率 (ROE) .....	<b>7.0%</b> (長期目標は10.0%)
連結株主資本配当率 (DOE) .....	<b>3.0%</b>

#### 事業戦略

軸足を「国内FC事業」に置き、抜本的に強化することで市場シェアと店舗収益率の向上を実現する

#### 財務戦略

積極的な事業投資と株主還元強化により、株主価値のさらなる向上に努める

### 「クルマのことならオートバックス」の実現に向けて

現在、オートバックスの店舗では、出店地域のお客様がクルマに関して何かお困りのことがあった時に、オートバックスを思い出して欲しい、オートバックスのサポートを受けて欲しいという想いから、従来のカー用品の他に、車検・整備・板金、クルマの買取・販売などクルマに関わる様々なサービスを提供しています。今後も私たちは「クルマのことならオートバックス」とお客様から支持・信頼される店舗を展開することによって、フランチャイズ加盟法人とともに発展していきたいと考えています。

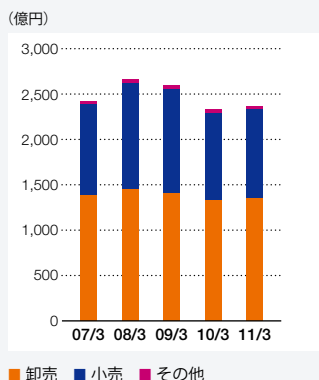
### 中期経営計画の諸施策の効果が表れ 増収増益を達成しました

2011年3月期の事業環境は、政府のエコカー減税・補助金制度による新車販売台数の増加や夏の猛暑、冬の全国的な降雪など需要を押し上げる要因が多く認められたものの、前期に好調であったETC車載器の大幅な売上減、さらに東日本大震災による消費者



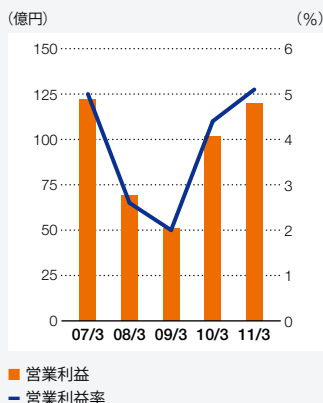
### 連結売上高

↑ +1.5%  
2,364億円



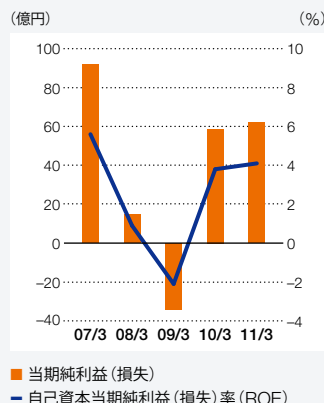
### 営業利益と営業利益率

↑ +17.9%  
120億円



### 当期純利益 (損失)と自己資本 当期純利益 (損失)率 (ROE)

↑ +5.4%  
62億円



の自粛ムードの高まりなど消費の回復を妨げるマイナス要因もあつた年となりました。

こうした中、当期、私たちは店舗収益率と市場シェアの向上を事業戦略の柱とする中期経営計画の諸施策を着実に実行しました。国内の主要業態である「カー用品販売」は、ETC車載器の売上の減少をタイヤ・ホイールで補うことを重点課題とし、品揃えや店舗の販売体制を強化しました。さらにエコカー補助金制度に伴い増加した新車や降雪によるスタッドレスタイヤの履き替え需要などに対しても積極的な商品調達と販売活動を展開したことにより、タイヤ・ホイールの売上は増加しました。こうしたことから、日本国内のオートバックスチェーンの店舗における売上高は前期比で既存店0.2%の増加、全店0.0%の横ばいとなりました。

当社グループの連結売上高は、前期比1.5%増の2,364億円と増収、連結営業利益につきましては、売上総利益率向上の施策や販管費の徹底的なコントロールにより前期比17.9%増の120億円、連結当期純利益は前期比5.4%増の62億円と増益となりました。

株主還元につきましては、連結株主資本配当率 (DOE) 3%を目指すという中期経営計画の方針に従い、1株当たり年間配当金は前期と比べ10円増配の年間135円としました。また、2011年3月期は160万株の自社株買いを実施するとともに、2011年5月に320万株の消却を実施しました。

### 4つの重点施策により収益拡大を目指します

このように増収増益のご報告ができるのは、「オートバックス2010中期経営計画」の各施策の効果が現れたものと認識しています。中期経営計画の2年目である2012年3月期は、原油や原材料価格の高騰、東日本大震災に伴う消費マインドの低下など不透明な事業環境の中ですが、特に①売場改革のさらなる推進、②接客改革の継続的実施、③タイヤ・車検を切り口とした売上の拡大、④国内における小商圏型店舗を中心とした出店などの施策により収益の拡大を目指していきます。

今後も「クルマのことならオートバックス」と言っていただけのようなお客様からの支持・信頼の獲得を目指してグループ一丸となって取り組んでいきます。ステークホルダーの皆様におかれましても、当グループに対するご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(中期経営計画の進捗の詳細、業績結果の解説につきましては、当社ホームページをご参照ください。)

2011年7月

湧田 節夫

代表取締役 社長執行役員  
湧田 節夫

# 事業ハイライト

## 自己株式の取得

資本効率の向上及び株主還元強化を図るため、160万株及び56億円を上限とする自己株式の買付を決議しました。同買付は2011年9月16日まで行われ、上限である160万株(約52億円)を取得しました。

## オートバックス2010中期経営計画の発表

2010年4月からの4年間を対象とする「オートバックス2010中期経営計画」を発表。「クルマのことならオートバックス」を目指し、同中期経営計画において、お客様視点によるお客様への提供価値の再構築を掲げました。経営目標は、2014年3月末に連結営業利益160億円、連結ROE7%、連結DOE(株主資本配当率)3%と設定しました。

## 第63期定時株主総会における議決権行使結果の開示

2010年より法定開示が義務付けられた定時株主総会における議決権行使の集計結果を開示。全議案が株主様の大多数の賛成をもって可決されました。なお、当社は義務化される前の2009年より自主的に議決権行使結果を開示しております。



## 環境配慮型の実験店舗及び既存店改革(売場改革)の実験店舗オープン

太陽光発電や壁面緑化、LED照明などを導入した環境配慮型の実験店舗「オートバックス大和郡山」をオープン。CO<sub>2</sub>使用量を従来店舗に比べ、約30%削減することを目標としています。また、同時にお客様視点に立ち、入りやすいと思っただけの外観や、クルマのことを相談しやすいカウンター、人気商品が分かりやすい売場などの既存店改革の要素を盛り込んでいます。



2010

4

5

6

7

8

9

## エコカー減税・補助金制度継続、9月に補助金制度終了

政府の景気向上策であるエコカー減税・補助金制度の利用が進み、新車販売台数が大幅に伸長。カー用品販売においても、新車に装着するためのカーナビゲーションや車内アクセサリーの売上が好調でした。

## 高速道路無料化社会実験開始

政府の景気向上策の一環として、一部の高速道路で無料化社会実験が始まる。高速道路休日1,000円の制度に加え、一部の高速道路における無料化実験が実施されたことにより、さらにレジャーで自動車を利用するドライバーが増加し、タイヤ、オイル、バッテリーなどメンテナンス用品の売上の下支えとなりました。



## この一年に発売されたプライベートブランド商品



AUTOBACS PROシリーズ  
「ドリンクホルダーAD-01」「缶灰皿AH-01」



AUTOBACS PROシリーズ  
「超粘着マット」  
～糊やテープを使わずに小物を固定、繰り返し利用でき、きれいにはがせる～



「携帯シャワー-SP01 5L」  
洗車をはじめ各種レジャーや  
ガーデニング時の散水などに便利



AUTOBACS PROシリーズ  
環境面に配慮した新規格対応のプライベートブランド  
エンジンオイル





### スーパーオートバックス京都ワウワンダーシティ 倍速充電スタンドを設置

電気自動車やプラグインハイブリッドカーなどを所有するドライバーの利便性を高め、CO<sub>2</sub>排出削減に関連したインフラ整備に寄与するために、当社グループ店舗では倍速充電スタンドの設置を実験的に行っています。

### タイ国内「AUTOBACS Sriracha Store」 オープン

タイにおける4号店、地方都市部において小商圏を対象とした小型店舗を出店。タイヤ販売を中心に各種メンテナンスを提供するとともに、カー用品の販売も実施しています。



### 小商圏型店舗の出店

従来は出店してこなかった小型の商圏への出店を開始しました。小商圏型店舗ではより地元に着し、オイル交換やタイヤ交換などのクルマのメンテナンスを中心とした商品やサービスの提供に注力しています。

2011

10

11

12

1

2

3

### 「オートバックス車検 安心保証」を業界に先駆けて導入

オートバックスグループ店舗にて車検を実施いただいた車両（一部車両を除く）を対象に、次回車検までの21ヵ月間、エンジンなど車両の主要部位約80ヵ所における故障について保証する「オートバックス車検 安心保証」を開始しました。このようなサービスを全国規模で導入するのは当社グループが初めてでした。

### 「東日本大震災」の発生

2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震及びその後発生した津波などにより、オートバックスグループ店舗でも合計50以上の店舗が何らかの形で被災しました。

### 「東日本大震災」に対する支援、復旧活動

東日本大震災に際して、義援金の提供、グループ店舗などにおける募金活動の実施、被災地域の災害対策本部に対する支援物資の提供、店舗や事務所における節電対応などを実施しました。



AUTOBACS PROシリーズ  
USB電源付「電源ソケット」  
USB電源付2連ソケットにより、iPodなど  
USBからの充電に対応



AUTOBACS PROシリーズ  
「カップ麺ホルダー」  
置き場所のなかったカップ麺やコンビニ  
おでんなどを置くためのホルダー



AUTOBACS PROシリーズ  
新デザインの「高齢運転者標識」  
お客様に安心と安全を提供



AUTOBACS PROシリーズ  
「コンビニトレイ」  
ドリンクホルダーを活用し簡単に  
取付でき運転席や助手席の方も  
使える便利なトレイ



P&Aシリーズ  
「PA-126 PND用バイザー 大」  
～PNDの画面大型化に伴う対応商品～



Protoneシリーズ  
DVD再生機能を搭載した6.1インチ液晶付  
マルチメディアオーディオプレイヤー

# 持続的な成長のために

## コンプライアンス

当社は、コンプライアンス体制の強化を進めるとともに、法令や倫理にかなった事業活動の重要性を、本社を始め子会社、フランチャイズ店舗を含むオートバックスグループの全店に周知徹底しています。

### コンプライアンスの基本体制

当グループでは、法令や企業倫理の遵守は当然のことであり、コンプライアンスはその当然の行動を大前提として、全てのステークホルダーの正当な期待にこたえる「行動規範」と「行動指針」を明確に定義し、これを基本原理として、当社内にとどまらずフランチャイズチェーン加盟法人に対しても、コンプライアンスの徹底及び啓蒙活動を推進しています。

具体的な取り組みとして、関連部門で構成する「コンプライアンス事務局会議」を毎月実施し、「行動規範」「行動指針」から外れた行為の有無について、確認を行い問題が認識されれば迅速に対応する体制を構築しています。

#### ■ オートバックスセブングループ行動規範と行動指針

<http://www.autobacs.co.jp/ja/csr/koudoukihan.html>

### オレンジホットライン

オートバックスグループでは、コンプライアンスに関する通報制度として「オレンジホットライン」(グループ内通報制度)を導入しています。これにより、グループ内における相互監視機能が働き、役員及び従業員のコンプライアンスへの意識向上が図られるだけでなく、倫理から外れた行動の早期発見が可能となります。

## 商品の品質管理活動

当社では、商品の品質を「品質管理規程」に沿って管理しています。当社が販売元であるPB<sup>※1</sup>商品はもとより、NB<sup>※2</sup>商品についても製造メーカーや仕入先と連携し、商品本体または商品使用時の適法性や、PL法に基づく消費者保護の観点など多面的な商品の管理を行っています。

### 低品質の商品を水際で防ぐ活動

当社は多くのPB商品の製造を海外工場に委託していますが、品質の安定化を目指し、製造現場での監査・助言を行っています。また、PB商品は工場出荷の直前、またはロジスティクスセンターに入荷した時点で、世界的に広く採用されている合格品質基準(AQL=Acceptable Quality Level)に基づいて検査を行っています。



AQL抜取基準に基づく検品作業の様子

さらに、PB商品、NB商品を問わず、全ての取引先に対し、適宜、商品の不具合情報を提供し低品質の商品を水際で防ぐ活動をしています。

### 低品質商品によって引き起こされた諸案件への対処・対策

NB商品の中にも、稀に不良品が含まれています。このような場合、当社では、取引先に対して対策書の提出を義務づけ、品質管理体制や製造工程にまで踏み込んだ再発防止策の検討・提案を行っています。また、ネット環境を利用したグループ内掲示板「商品不具合ホットライン」を導入し、タイムリーな情報を各グループ店舗と共有しています。

※1 プライベートブランド

※2 ナショナルブランド



## 1 省エネルギーへの取り組み

当社では自ら使用するエネルギーの削減に取り組んでいます。当社では省エネ法<sup>※1</sup>、温対法<sup>※2</sup>に基づきエネルギー使用量及びCO<sub>2</sub>排出量を国に報告しています。2011年3月期におけるCO<sub>2</sub>排出量と2010年3月期との比較は次の通りです。

■ CO<sub>2</sub>総排出量：6,170tCO<sub>2</sub> (2010年3月期：6,952tCO<sub>2</sub> 12.6%削減)

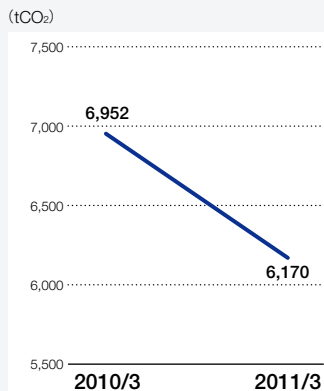
■ 原単位<sup>※3</sup>：4.615 (2010年3月期：4.692)

※1 エネルギーの使用の合理化に関する法律

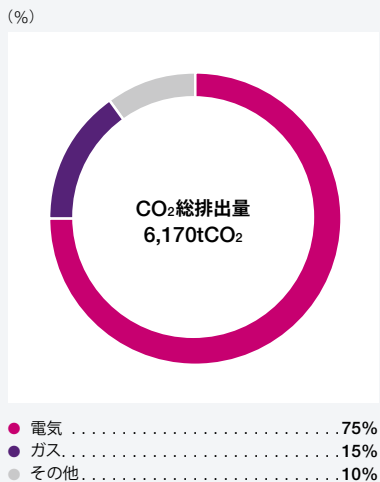
※2 地球温暖化対策の推進に関する法律

※3 原単位算出方法：原油換算エネルギー使用量／全事業所の総延べ床面積×稼働時間9で算出。上記数値は、オートバックスセブン本社・事務所・直営店舗・テナントビル・東西ロジスティクスセンターにおけるCO<sub>2</sub>排出量の合計

CO<sub>2</sub>排出量推移



2011年3月期エネルギー使用構成



### 当社における取り組み

当社グループでは、今後2～3年のスパンで実施する省エネルギー対策を策定しています。

主なものとして、高効率な照明設備への更新を順次行うことで、3年後の2013年3月期において原単位8%の削減を見込んでいます。

また本社においては、エネルギー管理統括者である内部統制担当執行役員を委員長とした『推進委員会』を立ち上げ、省エネルギー推進のための計画を作成し、定期的な招集を通して推進計画の進捗状況のチェックを行います。

### フランチャイズチェーン店舗における取り組み

2011年3月期から実験店舗としてオープンした『オートバックス大和郡山』『オートバックス府中』で導入した空調・照明・太陽光発電・屋上緑化など様々な設備により、「オートバックス大和郡山」では年間約80t (杉の木565本分)、「オートバックス府中」では約100t (同708本分)のCO<sub>2</sub>排出量の削減が見込まれます。

今後はこれらの検証を踏まえ、新規店舗及び既存店舗での導入を検討してまいります。

## 2

## 省資源への取り組み

### 物流分野における取り組み

当社ロジスティクスセンターにおける総輸送量は約2,100万トンです。

CO<sub>2</sub>排出量削減の取り組みとして、一部の商品輸送にCO<sub>2</sub>排出が少ない鉄道コンテナ輸送の利用をはじめています。

また、包装資源削減のため、店舗への商品の配送に再利用可能な折りたたみコンテナを活用して廃棄される段ボールの削減に努めています。

### 容器包装の削減

当グループにおいて利用される容器包装に関して、容器包装リサイクル法によって2011年3月期に再商品化が義務付けられている量は115トンです。

店舗でのレジ袋及びPB商品パッケージにおける容器包装使用削減のため、以下の取り組みを行っています。

#### ■ レジ袋使用削減

オートバックス店舗で利用される容器包装(レジ袋等)の使用重量は約11トンとなっています。

当社グループでは、店内でのPOP掲示やレジカウンタースタッ

フによる、少量点数購入の際のレジ袋使用有無の声かけ、適正サイズの使用を行うなどお客様にご理解・ご協力をいただきながら、レジ袋使用削減に取り組んでいます。

#### ■ PBパッケージの見直し

当社PB商品の新規開発においては、パッケージの軽量化、材質の見直し等を行い、容器包装の削減を行うよう検討をしています。

### 廃棄物の適正処理とリサイクル

#### ■ 廃棄物の適正処理

店舗のピットでの交換作業によって発生する廃棄物は違法性が確保された産業廃棄物業者に委託して適正に処理を行っています。併せて独自システムによる遵守状況の確認も行い、適正処理の確保に努めています。

#### ■ 廃棄物のリサイクル

店舗で発生する主要な廃棄物であるタイヤ、オイル、バッテリーはそれぞれ以下のようにリサイクルされています。

##### ① 廃タイヤ

→専門業者にて細かく裁断され、主にセメント工場、製紙工場にて熱源として利用(一部はセメント原料にも利用)

##### ② 廃オイル

→専門業者にて精製され、再生油となり、主にボイラー燃料として利用

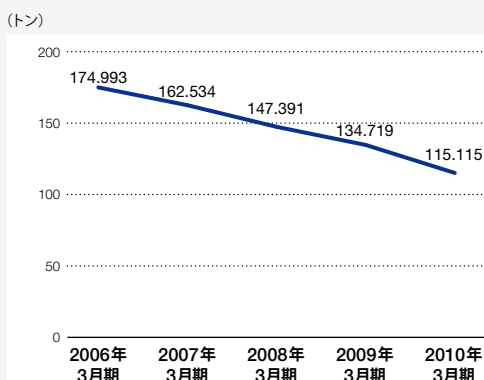
##### ③ 廃バッテリー

→専門業者にて再生鉛、再生プラスチックにリサイクルされ、再びバッテリー製品として利用

### リユース

お客様から買い取りをした商品は、中古品として『オートバックスセコハン市場』店舗で販売し、リユースを推進しています。

#### 容器包装再商品化義務量推移





### 3 環境マネジメントシステムの導入

当社は、更に環境負荷の少ない事業活動を推進するため、2012年3月期は、本社において環境マネジメントに関する国際規格(ISO14001)取得を目指して活動しています。

#### 社会貢献活動

##### 清掃活動

当社では、2003年3月期から毎年秋に富士山麓の青木ヶ原樹海周辺の清掃活動をFC法人も含めたボランティア活動として実施しています。2010年10月に実施した活動では530kgの廃棄物の回収を行いました。本活動は従業員の家族も参加し、未来を担う子どもたちに環境に対する意識をもってもらう教育の一環としての側面も併せ持っています。

また、身近な清掃活動として、2005年より本社周辺の清掃活動を実施し、2010年3月期からは、FC店舗でも週1日を『オートバックスデー』として店舗周辺の清掃を実施しています。

##### その他の取り組み

###### ■ 職業体験テーマパーク『キッザニア』への出展

当社は子供向け職業体験テーマパーク「キッザニア東京」「キッザニア甲子園」に、パビリオン「カーライフサポートセンター」を出展しています。自動車に触れる楽しさを子供たちに知ってもらうとともに、交通ルールに関する理解の促進と、今後の安全なクルマ社会の構築に寄与することを目的としています。



富士山麓での清掃活動風景

###### ■ モータースポーツへの協賛

当社はクルマを楽しむ場所と機会を提供することも社会貢献の一つと考え、国内で最も人気のある自動車レース「SUPER GT」シリーズに協賛するとともに、「ARTA (AUTOBACS RACING TEAM AGURI) Project」を設立し、世界に通用する日本人ドライバーの育成を支援しています。



## コーポレート・ガバナンス

### コーポレート・ガバナンスに対する考え方

当社では、あらゆるステークホルダーから支持と信頼を獲得し続けるため、企業の社会的責任を果たしつつ、お客様に喜ばれる商品・サービスの提供に永続的に取り組むことにより、「オートバックス」ブランドの維持・発展に努めることが最も重要であるとの認識のもと、継続的なコーポレート・ガバナンスの強化、改善に努めています。

### コーポレート・ガバナンス体制

当社は、取締役会による業務執行の監督と監査役による監査の二重のチェック機能を有する監査役会設置会社の形態を採用しています。

また、以下により、コーポレート・ガバナンス体制の強化を図っています。

- ① 執行役員制度の導入：執行と監督機能の分離、経営責任の明確化
- ② 3割を超える社外取締役：監督機能の強化
- ③ 社外取締役を中心メンバーとする委員会の設置：透明性、客観性及び適正性の確保
- ④ 独立性を有する社外取締役及び社外監査役の選定：一般株主の利益保護
- ⑤ 「経営会議」「執行役員会議」の設置：適切かつ迅速な意思決定

### 当該体制を採用している理由

自動車に関するフランチャイズビジネスに精通した社内取締役と、独立性を有する多様な経歴を持つ社外取締役により適正な企業経営を行うとともに、監査役による経営の監査機能を活用する

## 役員紹介 (2011年6月24日現在)

### 取締役



湧田 節夫  
代表取締役



経森 康弘  
取締役



森本 弘徳  
取締役



田村 達也  
取締役(社外)



服部 範雄  
取締役(社外)



松村 晃行  
取締役



小林 喜夫巳  
取締役



島崎 憲明  
取締役(社外)

ためであり、また、あわせて前述の体制強化により、経営の透明性、客観性及び適正性の高いコーポレート・ガバナンス体制を確保するため、当該体制を採用しています。

## 2011年3月期のコーポレート・ガバナンス活動

役員候補者の選定及び役員報酬の決定に際しては、その透明性及び客観性を確保するため、取締役会の諮問機関であるガバナンス委員会<sup>(※)</sup>に諮問しております。また、その他ガバナンスに関する事項についてはガバナンス委員会において継続的に検討し、適宜、取締役会に提言を行っています。

主な内容は以下のとおりです。

### ① 社外取締役候補者及び社外監査役候補者の選定

社外取締役候補者1名及び社外監査役候補者2名を選定し、取締役会に答申しました。各候補者の選定に際しては、2010年

2月開催の取締役会において決議した「社外役員の独立性要件」に基づき、その独立性についても確認しています。

### ② 役員報酬

第三者機関が蓄積したデータベースから同業あるいは同規模の他企業と比較し、役員報酬の妥当性について検証し、取締役会に答申しました。

### ③ 役員相互評価

当期においても、引き続き役員相互評価を実施しました。評価結果は、ガバナンス委員会における取締役候補者の選定や執行役員の担当異動の際の参考として利用されています。

(※) 社外取締役を委員長とし社外取締役全員と代表取締役で構成される、取締役会の諮問機関

## ■ 監査役



**井手 秀博**  
常勤監査役



**清原 敏樹**  
常勤監査役(社外)



**池永 朝昭**  
監査役(社外)



**坂倉 裕司**  
監査役(社外)

## ■ 執行役員

**湧田 節夫**  
社長執行役員 兼 チェン本部長

**経森 康弘**  
副社長執行役員 兼 チェン副本部長 兼  
経理・財務統括 兼 海外事業統括 兼  
海外事業担当

**森本 弘徳**  
専務執行役員 人事・総務統括

**松村 晃行**  
上席執行役員 店舗販売企画統括 兼  
サービス事業担当 兼 車販売事業担当

**小林 喜夫巳**  
上席執行役員 営業統括 兼  
エリア戦略担当

**上西園 英司**  
上席執行役員 中部事業部長

**吉山 弘樹**  
上席執行役員 経営企画担当

**江本 吉弘**  
執行役員 北日本事業部長

**熊倉 栄一**  
執行役員 関東事業部長

**加藤 哲也**  
執行役員 関西事業部長

**佐々木 勝**  
執行役員 南日本事業部長

**藤原 伸一**  
執行役員 店舗販売企画担当

**角倉 正親**  
執行役員 カ一用品事業担当

**樫 宏介**  
執行役員 中国事業担当

**戸出 譲**  
執行役員 内部統括担当

**小平 智志**  
執行役員 IFRS担当

**勝島 雅彦**  
執行役員 経理・財務担当

**平田 功**  
執行役員 人事・総務担当



# オートバックスチェーンの業態及び店舗ネットワーク

## 主要業態

### オートバックス



位置付け	標準型店舗
国内店舗数	404
1店舗当たり年間売上	469百万円
売場面積	500m <sup>2</sup> ~
商圏	5km

### スーパーオートバックス Type II



位置付け	大型店舗
国内店舗数	70
1店舗当たり年間売上	1,161百万円
売場面積	990m <sup>2</sup> ~
商圏	10km

### オートハローズ



北海道で展開する業態で、売場面積はオートバックス業態とほぼ同等。  
2011年3月期の1店舗当たり年間売上高は301百万円。

### スーパーオートバックス Type I



位置付け	大型店舗 (旗艦シップ店)
国内店舗数	6
1店舗当たり年間売上	2,094百万円
売場面積	1,650m <sup>2</sup> ~
商圏	20km

## その他の業態

### オートバックスセコハン市場



オートバックスチェーン店舗で下取りした中古カー用品やアウトレット商品の販売及び買取の専門店。

### オートバックス C@RS (カーズ)



中古車の買取・販売、新車の販売を行う業態。一部の店舗を除き、オートバックス・スーパーオートバックスなどの店舗内にカーズコーナーとして設置。

海外店舗 (2011年3月31日現在)



フランス

連結対象子会社運営店舗	8
フランチャイジー法人運営店舗	3



タイ

連結対象子会社運営店舗	4
-------------	---



中国

連結対象子会社運営店舗	1
持分法適用関連会社運営店舗	1
フランチャイジー法人運営店舗	2



シンガポール

連結対象子会社運営店舗	2
-------------	---

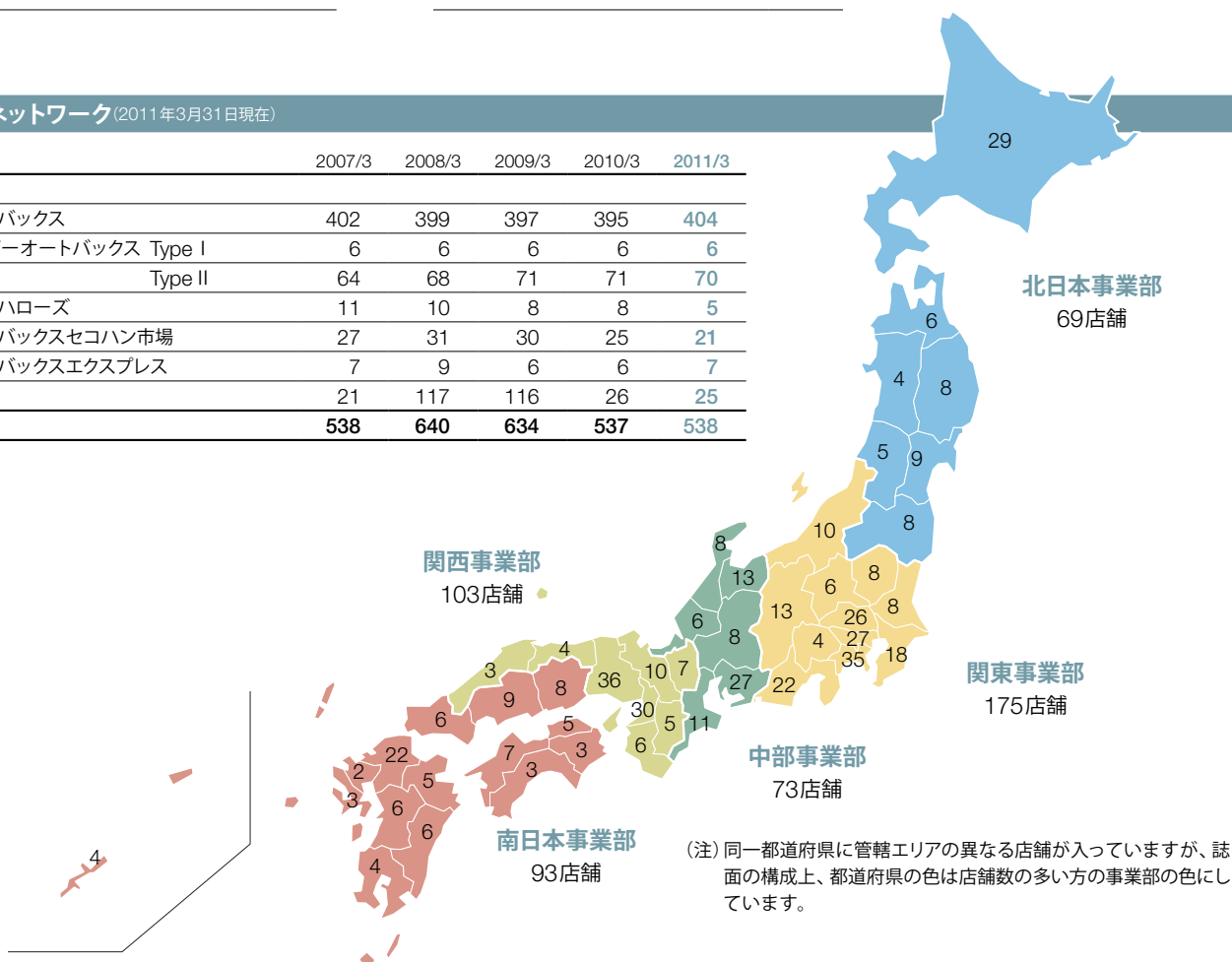


台湾

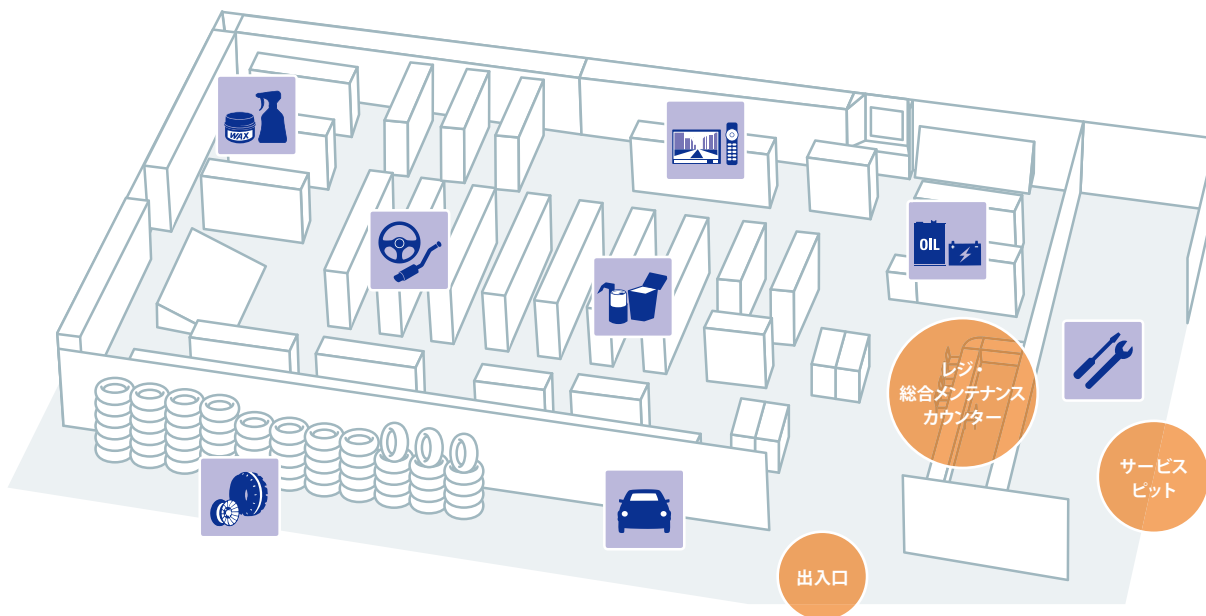
フランチャイジー法人運営店舗	4
----------------	---

店舗ネットワーク (2011年3月31日現在)

	2007/3	2008/3	2009/3	2010/3	2011/3
国内					
オートボックス	402	399	397	395	404
スーパーオートボックス Type I	6	6	6	6	6
Type II	64	68	71	71	70
オートハローズ	11	10	8	8	5
オートボックスセコハン市場	27	31	30	25	21
オートボックスエクスプレス	7	9	6	6	7
海外	21	117	116	26	25
合計	538	640	634	537	538



## オートバックス店舗におけるレイアウトイメージ



## 商品カテゴリー

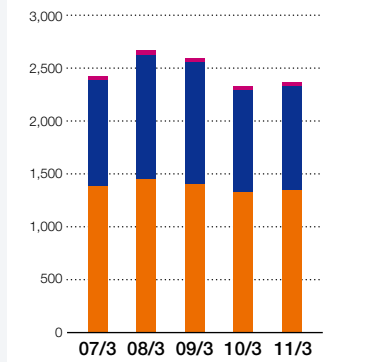
 <p>サービス</p>	<p>タイヤ・オイル・バッテリーなどの交換、カーエレクトロニクス用品の取り付け、車検・整備、板金加工、ウィンドウフィルム貼付作業などがこのカテゴリーに含まれます。</p>	 <p>タイヤ・ホイール</p> <p>国内外メーカーと当社プライベートブランドのタイヤ及びホイールなどがこのカテゴリーに含まれます。</p>
 <p>カーエレクトロニクス</p>	<p>国内外メーカーのカーナビゲーション、オーディオビジュアル商品などがこのカテゴリーに含まれます。</p>	 <p>オイル・バッテリー</p> <p>プライベートブランドのオイル「Vantage」シリーズ、バッテリー「DYNAGRID」シリーズや国内外メーカーのオイル・バッテリーなどがこのカテゴリーに含まれます。</p>
 <p>車外用品</p>	<p>ワイパー、タイヤチェーン、洗車用品、ワックス、コート剤、補修用品、工具など車外で使用する商品がこのカテゴリーに含まれます。</p>	 <p>車内用品</p> <p>芳香・消臭剤、ダストボックスなどの車内小物やチャイルドシートなどがこのカテゴリーに含まれます。</p>
 <p>カースポーツ用品</p>	<p>ドレスアップ用のエアロパーツ、マフラー、ヘッドライトバルブ、盗難防止機など、嗜好性の高い商品がこのカテゴリーに含まれます。</p>	 <p>その他</p> <p>直営店舗や子会社店舗で販売している中古カー用品、自動車、二輪用品、燃料、フランチャイジーからのロイヤリティ収入、フランチャイジーに賃貸している店舗家賃収入がこのカテゴリーに含まれます。</p>



# 基本データ

## 連結売上高

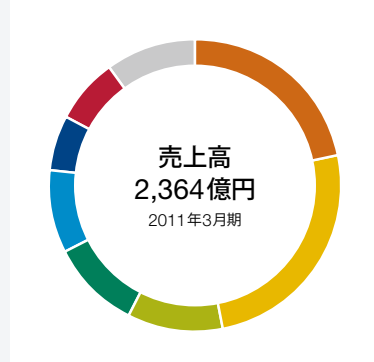
(億円)



- 卸売
- 小売
- その他

## 品目別売上高構成比

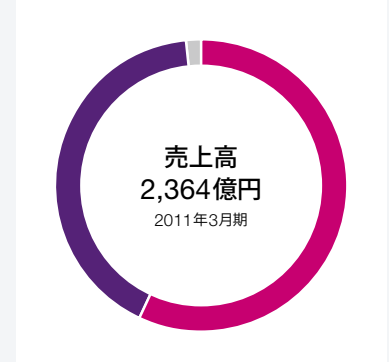
(%)



- タイヤ・ホイール . . . . . 21.8
- カーエレクトロニクス . . . . . 25.3
- オイル・バッテリー . . . . . 10.4
- 車外用品 . . . . . 10.1
- 車内用品 . . . . . 9.1
- カースポーツ用品 . . . . . 6.1
- サービス . . . . . 7.4
- その他 . . . . . 9.8

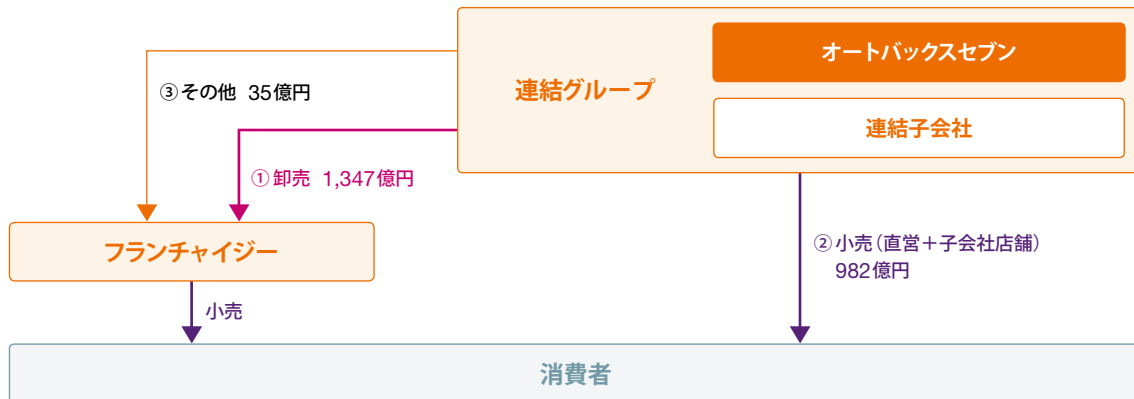
## 部門別売上高構成比

(%)



- 卸売 . . . . . 57.0
- 小売 . . . . . 41.5
- その他 . . . . . 1.5

## オートバックスセブングループの収益構造



連結売上高は、卸売売上高(①)、直営+子会社店舗の小売売上高(②)、その他売上高(③)の合計。

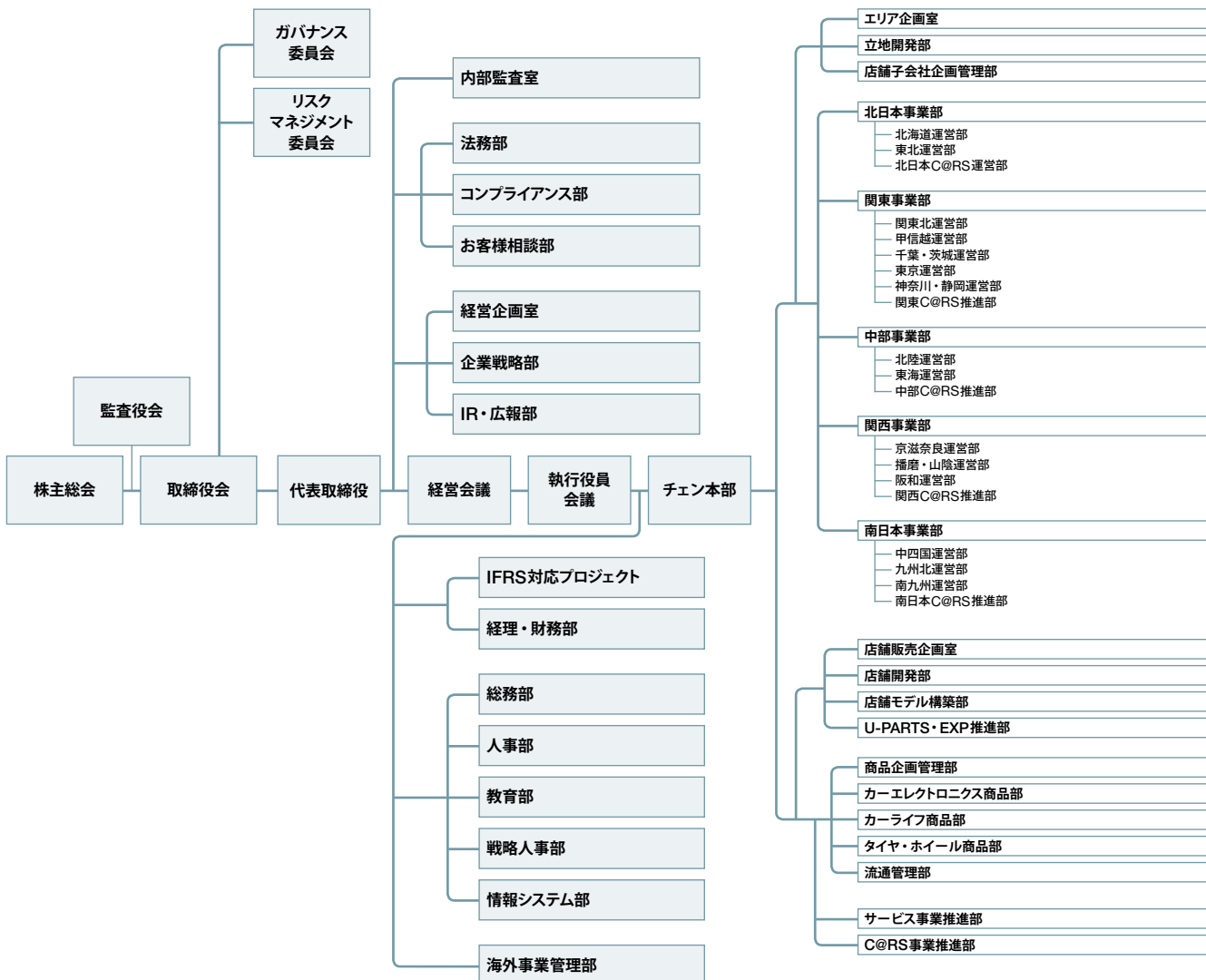
# 会社概要

## 株式会社オートバックスセブン

- **本社** 東京都江東区豊洲五丁目6番52号
- **創業** 1947年2月
- **資本金** 339億9千8百万円  
(2011年3月31日現在)
- **従業員数** 4,459名(連結)  
(2011年3月31日現在)

- **主な事業所** (2011年4月1日現在)
  - 北日本事業部(宮城県仙台市)
  - 関東事業部(千葉県市川市)
  - 中部事業部(愛知県名古屋市)
  - 関西事業部(大阪府吹田市)
  - 南日本事業部(福岡県福岡市)

## 組織図 (2011年4月1日現在)



## ウェブサイトのご案内



会社情報 <http://www.autobacs.co.jp/ja/company/index.html>

会社概要	会社の基本情報をご覧いただけます。
事業内容	事業内容、事業構造をご紹介します。
グループ会社一覧	子会社をご紹介します。
トップメッセージ	代表取締役社長のメッセージをご覧いただけます。
経営計画	「オートバックスBIGプラン」「オートバックス2010 中期経営計画」をご覧いただけます。
店舗数・店舗分布図	国内の店舗数・店舗分布をご紹介します。
沿革	創業からの発展の経緯をご覧いただけます。
役員一覧	取締役、監査役、執行役員をご紹介します。
組織図	最新の組織図をご覧いただけます。
業態紹介	各業態を動画等でご紹介しています。



株主・投資家の皆様へ <http://www.autobacs.co.jp/ja/ir/index.php>

トップメッセージ	代表取締役社長のメッセージをご覧いただけます。
株主総会情報	招集通知、決議通知、議決権行使に関するお知らせをご覧いただけます。
適時開示方針	適時開示方針を掲載しています。
連結財務ハイライト	店舗数、売上高などの主要数値をグラフにてご覧いただけます。
決算説明会	過去の説明会資料と最新の説明会の動画をご覧いただけます。
IRカレンダー	決算発表のスケジュールなどご覧いただけます。
IRライブラリ	決算短信、アニュアルレポート、株主通信、有価証券報告書をご覧いただけます。
月次情報	国内の月次店舗小売売上高をご覧いただけます。
個人投資家の皆様へ	個人投資家の皆様に当社をより理解していただくために様々な情報を分かりやすくまとめています。
株式情報	株式基本情報、株式事務手続きのご案内、株主の状況をご覧いただけます。
株主情報	配当金、株主優待をご紹介します。
よくいただくご質問	よくいただくご質問と回答をご覧いただけます。
お問い合わせ・資料請求	資料請求フォームをご用意しています。



社会的責任 CSR <http://www.autobacs.co.jp/ja/csr/index.html>

CSRへの取り組み	社会的責任(CSR)の方針、ステークホルダーとのかかわりをご紹介します。
コーポレート・ガバナンス方針	コーポレート・ガバナンス機構、重要な方針などをご紹介します。
コンプライアンス	コンプライアンスの基本体制等をご紹介します。
品質管理	品質管理に関する取り組みをご紹介します。
行動規範と行動指針	オートバックスセブンの行動規範と行動指針をご紹介します。
適時開示方針	適時開示方針を掲載しています。
統合リスクマネジメント方針	統合リスクマネジメント方針を掲載しています。
活動紹介	社会的責任(CSR)の具体的な取り組みをご覧いただけます。



クルマのことなら  オートバックス



**AUTOBACS SEVEN CO., LTD.**

株式会社オートバックスセブン (IR・広報部)  
〒135-8717 東京都江東区豊洲5-6-52 NBF豊洲キャナルフロント  
TEL: 03-6219-8718 FAX: 03-6219-8762  
E-mail: [investors@autobacs.com](mailto:investors@autobacs.com)  
URL: <http://www.autobacs.co.jp/>